

審判講習会 参加報告書

平成 30 年 2 月 24 日

報告者 木村 晃伸

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	高松宮記念杯 第 50 回全日本実業団バスケットボール選手権大会
参加者 (報告者)	木村 晃伸 (所属カテゴリー) 中予ミニ連
期 日	平成 30 年 2 月 10 日 (土) から 平成 30 年 2 月 12 日 (月)
会 場	大阪市中央体育館
講 師	
参加者	日本実連、各ブロック実連審判長、各ブロック派遣審判員、地元審判員
報告① <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技講習 <input checked="" type="checkbox"/> ゲーム (該当に レ)	<p>□ゲーム 主審 茅野 修司氏 (大阪府 A 級) 副審 木村 晃伸 (報告者) コート主任 阿部 聖氏 (北海道 S 級)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容 ホシザキ 対 YKK 《男子》</p> <p>【プレ・ゲームカンファレンスの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに沿って判定をしていく。 ・ワンゲームを通して一貫した判定をすること。 ・2POでは、どうしても確認できないことがある。その時、プレイヤーやベンチからのアピールがあるが、判定できなかったからといって引きづらないこと。 ・TOの管理 <p>【ゲーム後のミーティング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のプライマリーエリアで、ビックインパクトがあり、プレイヤーが倒れるケースがあった。パートナーがフロッピングのシグナルを出し、プレイヤーとベンチにフロッピングが起きたことを説明した。プレイヤー、ベンチへの説明は自分がしないといけない。そうしないと何もしていないように見えてしまう。同様にジャンプ・ボール・シチュエーションになったケースでも、そうなるだろうと思っていたのであれば、パートナーに乗っかり一緒にコールをすれば何もしていないようには映らない。 ・ブロック・チャージについて、どこを見ていればわかるのか、オフENSEを見てから、ディフェンスが急に出てきたように感じる。オフENSEは見なくていいので、ディフェンスを見ていればいい。 ・リードでは、常に3Pラインの延長くらいにポジショニングをしている。今後、3POのことも視野に入れ、どの位置に行けば次のプレイに対応ができるのかを考え、ポジシヨニ

	<p>ングをすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走り方をもっと格好よくすること。 ・ファウルでレポートに行こうとした際に、もう一度プレイヤーの番号を確認する仕草があり、せつかくの判定が台無しになってしまう。ファウルで笛を鳴した直後、一度ステイをして、ファウルをしたプレイヤーを確認する。プレイヤーからのアピールがあった際は、しっかりコンタクトとってからレポートが良い。
<p>報告②</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 講義</p> <p><input type="checkbox"/> 実技講習</p> <p><input type="checkbox"/> ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>□講義</p> <p>テーマ 『チームとプレイヤーに信頼される、感動を与える審判』</p> <p>① テーマについて、日本実業団連盟審判委員長・針生淳男氏から説明。</p> <p>これからのレフリーは、より、感性・嗅覚が求められること。3PO をベースにした 2PO への対応。</p> <p>B リーグの発足により、ゲームの映像がテレビやネットを通じて配信され、映像も残るようになる。映像を見直した際、誤った処置がされていた場合にトラブルになることもある。ゲーム中、クルーワークがより重要になってくる。必ず、自分一人で解決しようとしないうこと。</p> <p>レフリーも勉強をしていかないと、必ず乗り遅れることになる。</p> <p>② プレ・ゲームカンファレンスの事例紹介を阿部聖氏（北海道S級）より説明。</p> <p>【会場の到着】</p> <p>B リーグでは、プレ・ゲームカンファレンスを試合会場で行う場合、試合開始の 150 分前までに到着する。(B3 では 120 分前まで)</p> <p>【プレ・ゲームカンファレンス】</p> <p>60 分以上実施。クルーチーフを中心に過去の映像を用いて情報共有。</p> <p>過去の対戦、プレイヤーの特徴、スタッツ、キーとなるプレイヤーのマッチアップ等。</p> <p>また、ヘッドコーチの特徴についても把握する。</p> <p>3PO のメカニクスの映像を何回も見て、ベーシックな動きの確認をする。</p> <p>ガイドラインの確認。</p> <p>クルーチーフだけが情報を提供するのではなく、各クルーが、過去に経験をしたことを情報提供し、クルー内で共通認識をはかる。ゲームに参加するそれぞれが準備をしている。あたりまえのことを認識しているのか、ワンゲームを通してそれらを守りきれるのかをプレ・ゲームカンファレンスを通じて確認し、ゲームに臨む前の心構えをする。</p> <p>③ 年齢別グループディスカッション</p> <p>年齢別に 8 つのグループに分かれ、グループディスカッションを実施。</p> <p>テーマは『時代の流れに沿ったレフリングの変革に向けて、自分自身のベースとなる取り組み方について』グループ内でディスカッション。1 人 2 分間の持ち時間で発表。</p> <p>グループ内での意見では、①自身が担当をしたゲームを撮ってもらい確認をすること。修正すべき点や、チャレンジしたいことを次のゲームで実戦する。それを常に繰り返す。</p>

	<p>②Bリーグのゲームの映像から、トップ・レフリーのプレゼンなどを見て学ぶなど。③プレ・ゲームカンファレンスやゲーム中にもコミュニケーションをとること。他にも色々な意見があった。</p>
<p>報告③ <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技講習 <input checked="" type="checkbox"/> ゲーム (該当に レ)</p>	<p>□ゲーム 主審 川崎 洋次郎氏 (東京都A級) 副審 木村 晃伸 (報告者) コート主任 茅野 修司氏 (大阪府A級)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容 ナカシマ 対 クレバー《男子》</p> <p>【プレ・ゲームカンファレンスの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決勝トーナメントをかけたゲームではないが、プレイヤーが気持ちよくプレイができるようにすること。 ・Lが右へ行くことについて、気になるのなら行く。そうでない場合はTに任し、ボクシング・インを崩す時間帯を少なくすること。 ・悪い手の使い方については、ガイドラインに沿ってゲーム序盤に基準を示すこと。 ・TOサイド側でTになった場合、リングの支柱でタイマーが隠れてしまうので、終了間際のショットの時は、Lもタイマーを把握しておき、Tのヘルプができる準備をしておくこと。 <p>【ゲーム後のミーティング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走り方についても前日に続いて指摘をされた。プレゼンについても改善を指摘。 ・自分のアピールポイントをもっと主任に示してほしかった。 ・良い判定をするためには、プレイを長くを見ること。それができていたから、グッドコールになっていた。今後はそれをもっと増やしていかなければならない。 ・2P終了間際、Lでエリア4でのショットファウルをコールした。同時にピリオドが終了。目の前のプレイを確認しながら同時に、プレ・ゲームカンファレンスで確認をしていた、Lの位置でのタイマー確認も意識していたが、ショットファウルをコールした際、ブザーが聞こえず、ファウルが先かピリオド終了が先だったのか確認が無く、プレイヤーからのアピールもあり、どまどってしまった。最終的には、Tに確認をし、ショットファウルとほぼ同時だったので、フリースローの処置をしてからハーフタイムに入った。もっと余裕を持っていれば、落ち着いた対応ができ、スムーズにピリオドを終わらせることができていた。このようなケースでは、ファウルをコールした直後、ステイし、すぐにTに目を当て、確認をしてから処置をするようにとのアドバイスをいただいた。

所感

今回大会は50回の節目であり、また実業団の大会としては最後の大会でした。全国の各ブロックから多くの審判員が参加をされ、その中にはBリーグ・Wリーグのゲームを吹かされているトップ・レフリーの方々も多数参加されていました。

今大会に参加をし、全国の各ブロックのレフリーやトップ・レフリーが吹くゲームを間近で観て、特にプレゼンテーションに対する意識の高さが強く感じられました。私自身もまだまだ意識が足りないことを痛感し、同時に、普段からより強く意識を持って取り組んでいかないと変わらないことを改めて感じました。オンザコートでも、普段あまり吹くことができない、レベルのゲームを体験できたことで、新たな課題も見つかり、今後のレフリー活動で取り組み、自身のレベルアップに繋げたいと思います。また、自分が所属するカテゴリーでも、今回の体験をゲームを通して伝えていきたいと思います。

そして、コートサイドでは、常にトップ・レフリーの方々を観戦をされているので、ゲームを観ながら、自身の体験談を踏まえて解説をしていただき、貴重な意見を聞くことができ、充実した期間を過ごすことができました。

この度、今大会に派遣をさせていただいた、四国実連のみなさま及び愛媛県バスケットボール協会のみなさまには深く感謝申し上げます。

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。